

2015

やまがたヤマネ研究会活動報告書

YAMA-MONO

やまがたのいきもの

であう。つたえる。かんがえる。



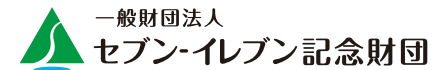
2016年2月発行

やまがたヤマネ研究会

HP <http://yamagata-yamane.jimdo.com/>

E-mail yamagata_yamane@ybb.ne.jp

発行協力



団体の目的

設立：2007年8月

本団体は希少種問題、外来種問題、獣害問題などの野生動物と人との問題解決を目的に、山形に生息する野生哺乳動物の調査研究と環境教育活動を行っています。一人でも多くの方が山形の動物を通して地域環境の『今』を知るきっかけ作りの場を提供しながら、地域の『野生動物力』を高めて生きたいと考えています。

代表 中村夢奈

業務内容



調査研究

調査技術の開発や地域に根付いた基礎調査研究を行っています。研究機関や団体、個人と提携した研究の論文・学会発表なども行っています。



環境教育

野生動物(哺乳類)の基礎調査の委託業務を行っています。2014年からは山形県のレッドデータリストのデータベース整理や基礎調査も行っています。



委託調査

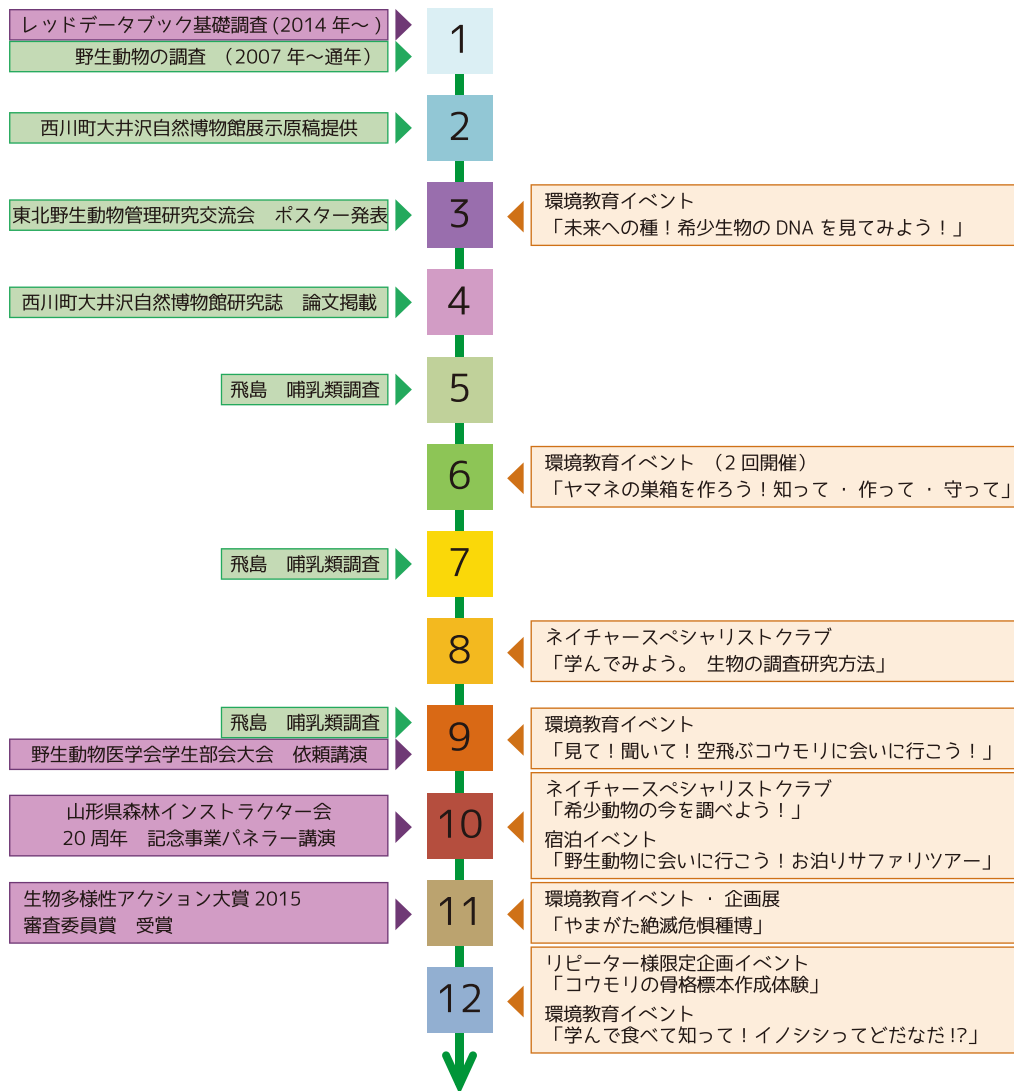
野生動物に関するイベント、ツアー、展示会などの企画・運営・実行を行っています。また、環境教育に関わる依頼講演の委託業務も行っています。



グッズ販売

当会がデザイン・製作したオリジナルグッズの販売を行っています。収益は調査活動費として活用しています。

2015年の活動



《2015年の助成元一覧(50音順)》

- ・一般財団法人 セブン-イレブン記念財団 (飛鳥における哺乳類調査に対して)
- ・SAVE JAPANプロジェクト2014・2015 (環境教育イベントに対して)
- ・平成27年度 県民みんなで支える森・みどり環境公募事業 (環境教育イベントに対して)
- ・平成27年度 荘内銀行ふるさと創造基金 (ネイチャースペシャリストクラブに対して)



調査 to 研究



もぐらないモグラ “ジネズミ”

1年の平均気温が12℃以上もある山形の南国、飛島。鳥の島として有名で渡り鳥の季節には多くのバードウォッチャーさんが日本全国から集まります。

そんな飛島、実は1970年代にある哺乳類が見つかったのです。しかし正式な記録も標本も残されていません。

そこで、この謎の生物の生息状況を調べるために飛島に初上陸してきました。春・夏・秋の3つの季節にさまざまな捕獲罠をしかけたところ…


日本初の「生きた飛島のジネズミ」を捕まえることに成功しました！飛島の住民の方たちに、生きたジネズミを連れて「ジネズミっていう土にもぐらないモグラがいましたよ！」と伝えると「モグラ？ネズミ？」と笑いながら聞き返されました。

ジネズミは落ち葉の下などにいるクモなどの小さな昆虫を食べており、土にはもぐりません。鼻がとがって、尾が長い姿から「地面にいるネズミ=ジネズミ」と名付けられたようです。

哺乳類を研究するのに島環境というのはとても魅力的。何年…何百年…何万年前からいるかによってその動物の歴史が変わってくるからです。私たちは遺伝子を用いて飛島のジネズミがいつ島に渡ってきたのかを調べています。島に住む動物はほんの少しの環境の変化で一気に絶滅しかねません。今後も飛島唯一の野生哺乳類ジネズミを私たちは追いかけます！



1. 罠にかかったジネズミ。あなたはモグラに見えますか？ネズミに見えますか？
2. ジネズミを捕まえるために落とし罠を埋めます。夏は滝のように汗が罠にしたり落ちました。
3. 罠にはトカゲもかかります。鳥の人はトカゲにも驚いていました。

*飛島の哺乳類調査は「一般財団法人 セブン-イレブン記念財団」の助成によって行われたものです。当研究会のHPに『飛島哺乳類調査記』のページを設けてあります。 

不思議でいっぱい野生動物

野生動物たちはどこにいるのでしょうか？ブナ林の広がる豊かな森林や厳しい自然の中を想像される方が多いようです。もちろん、人がなかなか入らない奥深い山の中にしか生きられない動物もいますが、ほとんどは人里近くの小さな林や森の中で出会えます。それは、彼らもご飯が食べやすい環境や歩きやすい場所など住みやすい環境を好むからです。

私たちは山形県にいる野生哺乳類の生態と生息地を調べていますが、やみくもに調べているわけではありません。先行研究をたよりに比較しながら調査しています。

するとどうでしょう？生き物たちのいかに個性豊かなこと！縄張りを主張するために赤外線カメラを見張りに来るカモシカ、一つの樹洞を巡って対立する鳥と哺乳類、住宅地内でひょっこり姿を現す絶滅危惧種たち。

彼らはとても身近で不思議な隣人なのです。山形の野生哺乳類の情報は他県と比べて多くありません。新発見ばかりの山形の野生動物たちを見かけたらぜひじっくり観察してみてくださいね。

※捕獲には許可が必要ですので見るだけにしましょう



1. 赤外線カメラをのぞきこむカモシカ。若い個体は特に好奇心旺盛です。
2. 赤外線カメラに映るイノシシ。山形では絶滅種でしたが、今では定着し始めています。こちらカメラ目線です。
3. 多くの県で絶滅危惧種に指定されているコテングコウモリ。巻いた枯葉の中で眠ることもあります。
4. 樹洞から出てきたムササビ。大きな被膜を広げて滑空する姿は圧巻！
5. 使われなくなった坑道などはコウモリ達のねぐらになります。
6. 巣箱を開いたらモモンガが飛び出してきました！

鳥だけじゃない！ 哺乳類のいる飛島



みんなYAMA-MONO



アカネズミをじっくり観察。じゅんばんこに見てえらい！



沼地にはたくさんの足跡。足跡の形でどの動物が歩いたかわかります。



希少野生動物のDNA実験を体験。みなさん上手に抽出できました。



イノシシを学んだ後に、イノシシ鍋を頂きました！お味は花マル頂きました！



二人で作ったヤマネの巣箱。使ってもらえるといいね！



ムササビを探しに夜の森へ。ムササビには会えませんが、ヤマネを観察しました。



コウモリの羽を観察。人間の指とコウモリの指どう違ったかな？



笑顔あふれるコウモリ講義でした！

山形発の新しい環境教育の形を

私たちがイベントを行うとき、「調査研究情報をリアルタイムに提供することで地域に役立ててほしい」、「五感を最大限に使う科学的な視点をやしなってもらいたい」、「動物に興味のある小さな芽を育てたい」という3つの柱を大切にしています。全国的に見ても野生動物のみを取り扱った環境教育イベントは実は多くありません。…というのも、私たちと同じく動き回る生き物を見たり経験するのは難しいからです。また、野生動物を取り扱った内容の環境教育では安全面から人数や体験内容の制限が出てきてしまいます。

そこで、2015年に当団体では新しい試みをしました。それは少人数の塾形式のイベント・宿泊イベント・オリジナルツアーの導入です。参加者の方としっかり・ゆっくりお話しできる時間を設けることができ、垣根を越えた本音の質問にお答えできるようになりました。

参加者の方が選べるように、これからも多くの方の興味をそそるようなイベントをどんどん企画していきますので、ぜひ一度遊びに来てください！

YAMA-MONO 2015 NEWS !

・生物多様性アクション大賞2015の審査委員賞を受賞しました！
(<http://5actions.jp/award/>)



・あなただけのオリジナルプライベート野生動物観察ツアーお作りします。詳細はHPをご覧ください。

・学校・団体・企業さま向けのご予算や内容に合わせて各種イベントなど引き受けます。絶滅危惧種の標本貸出もいたしますので、ご希望の方はお問い合わせください。

・イベントの運営をお手伝いいただける大学生を募集しています。興味のある方はyamagata_yamane@ybb.ne.jpまでお問い合わせください。

